



発行所
飯田市 竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
龍田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,806人
男子	3,353人
女子	3,453人
世帯数	2,096戸
(14年2月末現在)	

委員会活動

「竣工記念」を軸にして歩んだ一年間

施設に込めた熱意を受けて

新公民館は、地域のみならずの強い熱意と期待をもって発足して一か年。活発な活用によって、事業が滞りなく盛況に推進され、それぞれ高い評価を受けていることは有難いこととあります。

施設がよくなれば、当然活動内容も向上するように努めなくてはなりません。

一か年の竜丘公民館の当初計画した諸事業が、地域の方々のご理解ご協力と、役員各位のご尽力に依って終了できることは感謝であります。

地域課題を的確に捉え、新しい事態に対応するよう一層努力してまいります。
(公民館長 木下陸奥)

多彩な文化活動が光る

昨年の五月、念願の新公民館が竣工し、この時点より文化行事が始まりました。特にアフィニス夏の音楽



新公民館テラスでの憩い（文化祭にて）

七月二十二日猛暑の中、「スポーツを楽しむ」、新公民館で親睦を深める」を目的に竣工記念スポーツ大会を行いました。男子がソフトボールに十七チーム、女子はキンボールに二十四チ

竣工を祝して球技大会開催

この新しくそして素晴らしい公民館で、より良い公民館活動に、又、地域の方々に愛され、地域に根ざした公民館となりますよう望んでおります。
(文化委員長 伊東正直)

日ごろの成果を発揮 竜丘コーラスグループ

去る二月十日に飯田市民館において、第二十六回公民館コーラスグループ発表会が行われました。各地区や仲間ごと全部で十三団体が、発表披露されました。開会式後の全体合唱から始まり、ホールいっぱい、皆の熱気と緊張感に包まれていきました。

竜丘コーラスは、四番目に「島唄」、「花」、「荒城の月」、「浜辺の歌」の舞台にして公開していきま

より多くの人達、特に若い世代の人たちに足を運んで先人の足跡に触れて欲しいものです。
(民俗資料保存委員長 牧内利郎)

新しくなった図書館には大勢の人達が来てくれるようになりまして。特に開館して四ヶ月位までは、子どもたちが、本を抱えてカウンターから玄関まで並んでいたほどです。

民俗資料保存委員会は、正面玄関右入口近くの「ふるさと学習室」に於て、会合や催し等行っています。昨秋の文化祭は、「ふるさと学習室」を活用し、過去に地域で最も盛んであり生活の基盤であった養蚕をテーマに展示しました。

また、まゆ玉や餅花など飾り、新しい建物に古い時代の生活様式を展示して時の流れに感慨深く見て頂けたと思います。旧資料館には沢山の資料が保存されています。今後順次整理して、この教室

お父さんと一緒に本を選ぶ子どもの姿がほほえましく感じました。本も子ども向けのものはもちろん、一般向けのベストセラー、新刊、コンピューター関連、健康に関する本



「おはなしの部屋」での読み聞かせ



公民館コーラスグループ発表会

公民館の活用が盛んになり、地域の方々から好評と要望の声が聞かれています。二年目を迎えるに当たって公民館の整備や管理について「公民館管理委員会」がこのほど発足し、規約が決められました。

施設と管理の充実を図る 公民館管理委員会発足する

第一、この組織の名称を「公民館管理委員会」とし、年度当初はその年度の事業計画について決定し、年度末はその年度の事業総括と次年度への申し送りを行う。
第二、臨時役員会・必要に応じて開催し、事業の目的に添った事項について検討及び決定する場とする。
第三、必要・正副委員長、事務局により構成し、必要に応じて開催し、全体会での検討事項などを議論するほか、緊急を要する決定事項については、責任の権限を有する。ただし、三役会で決定した事項であっても、定例あるいは臨時役員会でその承認を必要とする。
第四、監査会・年度末の定例役員会前に開催し、その年の会計及び事業を監査する。
第八、管理委員会は、以下の方法で収入支出を行う。
一、竜丘公民館建設委員会から移行した寄付金収入は、施設設備及び植栽等環境整備の充実のために支出する。
二、建物及び敷地内の清掃等環境管理については、自治会から交付される補助金等をもって支出する。
三、今後の寄付その他収益が生じた場合は、全体会の議決をもって支出目的を定める。
四、管理委員会の会計は、第一項と第二項において、分けて管理する。
第九、上記の規約に定めのないことで、必要事項は会議の中で追加修正を行う。
※この規約は、平成十四年三月十八日をもって発効する。

四、楽曲、発表しました。そのからだ全体が男性と女性のハーモニーが、しびれる程の迫力を感じました。総評では、中村先生からコーラスで大切なのは、歌を楽しむこと。この大舞台で十二分に出し、一人一人の生き生きとした顔を、とても輝いてみえました。全体の歌唱指導で、「はるかな友に」を、全員で合唱した時には、割れんばかりの熱気を感じました。お話を聞いたり、自分でお話の部屋では、毎月第二、四水曜日、午後三時半頃から紙芝居、絵本の読み聞かせを致しました。また毎月一回保育園児が図書館に来てくれ、紙芝居、絵本のお話を聞いたり、自分でお話の部屋では、毎月第二、四水曜日、午後三時半頃から紙芝居、絵本の読み聞かせを致しました。また毎月一回保育園児が図書館に来てくれ、紙芝居、絵本のお話を聞いたり、自分でお話の部屋では、毎月第二、四水曜日、午後三時半頃から紙芝居、絵本の読み聞かせを致しました。

今、飯田下伊那には、老人保健施設、介護療養型医療施設あわせて十一ヶ所もあります。しかし、どの施設も入所希望者が多く、空きまちの状況のようです。また、施設によっては、入所期間が三ヶ月と決まっておき、その施設を退所した後の受け入れ先が決まっていないうと、入所できないという状況です。

実は、一月の終わり、家族の留守中に祖母が転倒し、右大腿部頸部を骨折し入院してしまいました。主治医の先生の「寝たきりにしたくない。手術をすれば歩けるようになる」という言葉に本人も同意しての手術。さいわいにも、先生方のご努力により退院も間近になりました。

本人の体の状態、家の事情により介護制度を利用しなければならなくなってしまう、はじめて介護保険制度の現状の厳しさを知りました。

祖母は、まだ完全に自立できていません。その状態で自宅介護するには、今までの家庭生活を大きく変更せざるを得ません。今、必死に施設を探していますが、介護保険を使える年齢の人が、保険料を納めているのにに保険を使えない。二、三ヶ月も前に申し込まないと入所できないということ、健康なうちに申し込まないと間に合いません。でも、介護保険の認定は審査してから一ヶ月かかるそうです。一体どうすれば施設に入所することが出来るのでしょうか。

福祉を身近に経験すると、介護保険制度等、高齢者やその家族が安心して暮らせる対応が必要なることを痛感しました。

あつい想いがほとばしる

飯田市公民館大会

「明日への展望、地域づくりの拠点、公民館」第三十
九回飯田市公民館大会が二月二十七日、飯田市公民館
に於いて行われました。竜丘からは、本館分館の関係
者の方を中心に、四十名近くの方が参加しました。

「平和の春にあたらしく、公民館の歌」を参加者全員で斉唱。本年度の社会教育功労者の皆さんの表彰などの開会行事を行った後に、シンポジウムが行われました。

飯田に始まり飯田に終わる。飯田市の公民館活動は、全国から大変に注目を浴びているそうです。

今回の大会では、九十八年から四年間、社会教育学会の先生方が飯田市の公民館活動を調査しました。その結果を代表して三人の方がシンポジウムという形で、調査で見た課題などを話していただき、これからの飯田市の公民館活動のあり方を考えました。

その後、六つの分科会にて、各チームごとに話し合
いが行われました。第三分科会「分館活動のあり方」を学ぶ……地域につながる分館長の思いには、長野原分館長の小林泉さんが発表を行いました。

「公民館活動が都会になくて、なぜ田舎にあるのだろう。」小林さんは、大阪からUターンして五年後にこの様な印象を抱きながら公民館活動との関わりが始まりました。

“総合の時間”の研究 子ども等が公民館で発表会

三月二日、竜丘公民館大ホールで竜丘小学校の総合学習発表会が、「発見たつおか！」をテーマに開催されました。総合学習とは、子どもが自ら題材を考え、学ぶ時間で、小学校では、様々な形で地域の皆さんの協力を得て取り組んできました。昨年は校内で開催されましたが「地元の皆さんに見てほしい」と公民館での開催となりました。

最初は六年二組の「パネルシアター」の発表でした。地域の物語を題材にシナリオを作り、保育園などで演じたことで、感じた苦労や多面的に学習した結果を発表しました。水害の歴史、地元の大勢の



喜びが紹介されました。三年生は、「象列車がやってきた」のオペレッタへの取り組みを紹介しました。練習やポスター作りを通じて学年が一つにまとまったこと、竜丘コーラスや保護者の皆さんに手伝ってもらったことなど紹介しました。

四年一組は、アメリカから来飯していたハープ先生との交流の紹介がありました。発表の中で実際にアメリカの先生と英語で話をし、会場を驚かせました。

発表後、木下公民館長から「総合学習の発表会に公民館を使い、地元の大勢の

自然などを調べたこと、また釜口水門や河口の町、静岡県竜崎町へ行ったことなど盛りだくさんでした。

最後は六年一組の「竜丘古墳しらべ」で、数多く存在する古墳の一つ一つを詳細に調査したことが紹介されました。

発表後、木下公民館長から「総合学習の発表会に公民館を使い、地元の大勢の

自然などを調べたこと、また釜口水門や河口の町、静岡県竜崎町へ行ったことなど盛りだくさんでした。

市民大学講座 第四講

開善寺の重要文化財をたずねて

第二十三回竜丘地区市民大学講座第四講は、「竜丘の寺院を知る」をテーマに開善寺について学びました。

開善寺は、山門は有名ですが、他にも名高い文化財が現存しており、地域の人々から親しまれてい

開善寺は、山門は有名ですが、他にも名高い文化財が現存しており、地域の人々から親しまれてい

開善寺は、山門は有名ですが、他にも名高い文化財が現存しており、地域の人々から親しまれてい

開善寺は、山門は有名ですが、他にも名高い文化財が現存しており、地域の人々から親しまれてい

開善寺は、山門は有名ですが、他にも名高い文化財が現存しており、地域の人々から親しまれてい



国際協力事業団 研修受入れ

初の小学生交流も

去る三月五日、国際協力事業団（ジャイカ）の研修者が、竜丘公民館を訪れました。今回は、自衛隊のPKO派遣で話題となっている、東ティモールを含む十ヶ国から十三名の方が研修に来ました。

研修者たちは、公民館の活動や、講師を助けた塩沢さん、義男さんが紙芝居で発表しました。



研修者たちは、公民館の活動や、講師を助けた塩沢さん、義男さんが紙芝居で発表しました。

みんなの手で!! 公民館テラスの塗装

三月二十四日に公民館のテラスの塗装作業が、各分館から二名ずつ参加して行われました。



雨ざらしになるテラスがいつまでもも保存していくには手入れが必要で、オスモカラーという良質の塗料を二時間たっぷりかけて丁寧な作業をしました。